

**マメトラ**

# 取扱説明書

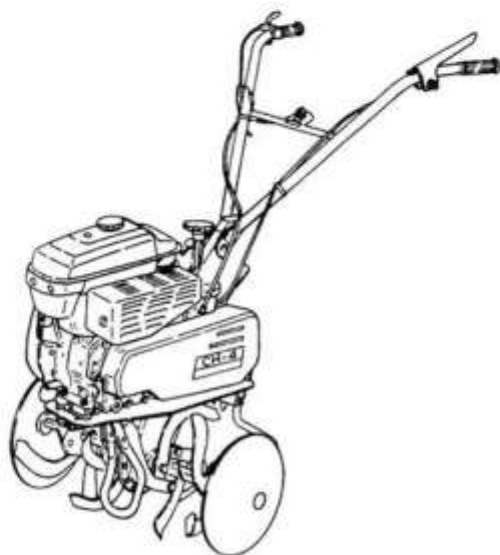


当製品を安全に、また正しくお使いいただく  
ために必ず本取扱説明書をお読みください。  
お読みになった後も必ず保存してください。

機種名

# CH-4

## マメトラ管理機



**マメトラ** 農機株式会社

## はじめに

### マメトラCH-4を お買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書は「マメトラCH-4」の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いいただき、最良の状態でご使用ください。

お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。

製品を貸与される場合は、この取扱説明書を添付してお渡してください。取扱説明書を紛失、汚損された場合は当社又は、当社の特約店に連絡してください。

なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。




ご不明のことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお近くの特約店・販売店にご相談ください。

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

#### ◆注意表示について

本取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

-  **危険** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
-  **警告** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
-  **注意** その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

# サービスと保証について

## ☆保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

## ☆アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社営業所までご連絡ください。

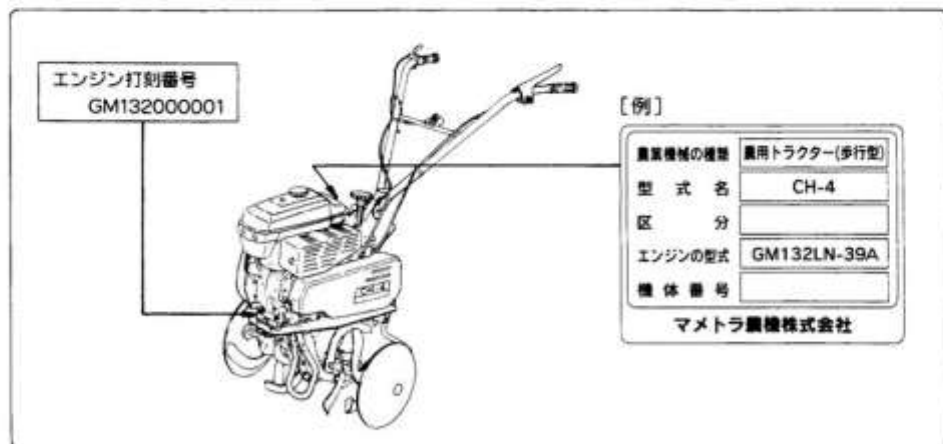
連絡していただきたい内容

- 型名・区分
- 機体番号・エンジンの場合エンジン番号
- 故障内容（できるだけ詳しく）

## ☆補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても納期および価格についてご相談させていただきます。



## ☆取扱説明書について

本機取扱説明書を紛失、破損した場合はコードNo.146 1511 000でご注文ください。

# 目次

はじめに	I
サービスと保証について	II
目次	1
1. 安全作業のための心得	2
2. 安全マーク貼付位置	6
3. 各部の名称と機能	7
4. 作業機の取付け	8
1) 150ナタ爪の取付け	8
2) ヒッチ部への取付け	8
3) 畦作り培土作業	9
5. 本機組立	10
1) 本機の組立	10
6. 作業前の注意	12
7. 運転の方法	13
7-1 エンジンの始動・停止	13
1) エンジン始動のしかた	13
2) エンジン停止のしかた	15
7-2 発進・旋回・変速のしかた	17
1) 発進のしかた	17
2) 旋回のしかた	17
3) 変速のしかた	18
7-3 150ナタ爪の作業のしかた	18
1) 耕す深さの調整方法	18
2) ハンドル高さおよび左右回動について	19
3) エンジン停止	21
4) トラックへの横込み・積障しの方法	22
8. 作業後の点検・整備	23
8-1 定期点検一覧表	23
8-2 各部オイルの点検・交換のしかた	23
1) エンジンオイル	24
2) ミッションオイル	25
3) エアクリーナの掃除	26
4) 注油	27
9. 主要部の調整	28
9-1 ベルトの調整	28
9-2 変速のしかた	28
10. 格納のしかた	29
11. 不具合と対策方法	30
12. 特長	32
13. 仕様	33
●安全説明確認カード	

# 1 安全作業のための心得

## ■本機を使用するにあたって

### 使用する人の条件

次のような項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき
- 過労・病氣・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき
- 妊娠しているとき
- 子供の方
- 取扱方法を熟知していない人



### 使用する人の服装

機械に巻き込まれる事故を予防するため、はち巻き・首巻き・腰タオルをしないでください。また、滑って転倒する事故を予防するため、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、だぶつきの無い服装をしてください。



### 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。



### 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外のアタッチメントを取付けないでください。また、機械を改造しないでください。



## ■点検整備をしてください

### 1年毎に定期点検整備を

機械の整備不良による不具合や事故を予防するために、1年毎に定期点検・整備を受け各部の保守をしてください。



### 点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備をおこなってください。特に、クラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。



## ■点検整備をしてください

### 点検・整備・掃除をするときは

点検・整備、またはアタッチメントの脱着・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり動いたりしない平坦で安定した場所を選び、エンジンを止めてください。また、誤ってエンジンが始動することのないよう燃料コックを「閉」にし、完全な停止状態で過熱部分が十分に冷めていることを確認してからおこなってください。



### 排気ガスには十分に注意

屋内などでエンジンを始動する場合、排気ガスによる中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所でおこなうようにし、十分に換気をおこなってください。



### カバー類は必ず取付ける

ベルトカバーなどの防護装置を取外す場合は、必ずエンジンを止め、完全な停止状態を確認してからおこなってください。また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。

点検時カバー類の  
つけ忘れのないよう  
に



点検整備は各クラッチ  
エンジンを「切」ること

### 給油・注油するときは

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、火傷や火災の危険がありますので絶対に給油・注油をしないでください。また、給油中はタバコや裸火照明などの火気は厳禁です。



エンジンが熱い間は  
注油・給油はしないで



火気  
厳禁



### 長期格納するときは

火災などを予防すると共に、燃料の変質による不具合を防止するために、燃料タンク・気化器内の燃料を抜き出し、バッテリーを取外して保管してください。



### 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

### エンジンの始動や発進するときには

クラッチを「切」り、変速レバーを「止」にし、周囲の人に合図してからエンジンを始動してください。周囲の人に危害を加えたり転倒や衝突したりしないように周囲の安全を確かめ、急発進しないように徐々に発進してください。

# 1 安全作業のための心得

## ■作業・移動をするとき

### 二人以上で作業するときには

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。

### ベルトを交換したり、爪を交換するときや、巻き付いた草などを取除くときは

必ずエンジンを止めてからおこなってください。



### 回転している爪には十分気をつけて

回転する爪に巻き込まれると重傷を負うことがあります。特にロータリ作業では、ロータリ部を持ち上げて旋回するので足元には十分に気をつけてください。



### ロータリ作業や車輪作業では機械の飛び出し(ダッシング)に注意

ロータリ作業や車輪作業中、地面が固かったり石を噛んだ場合、またはロータリを急激に地面に降ろしたりすると、回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す(ダッシング)ことがありますので十分に注意してください。特に、川や崖、人のいる方向に飛び出す(ダッシュ)と、転落や人身事故を招く恐れがあります。



### 機械から離れるときには

機械から離れるときには、平坦で安定した場所におき、エンジンを止め、各部が完全な停止状態になっていることを確認してください。やむを得ず傾斜地に置くときは、必ず車止めをしてください。



### ハンドルを逆向きにするときは

サイドクラッチレバーの左右を切り替えないと、思わぬ方向に旋回してたいへん危険です。必ずサイドクラッチレバーの切り替えをし、確実に作動することを確認してください。



### 後追しながら作業するときは

転倒しないように足元に十分に注意し、後方の障害物がないか確認して後方の障害物と本機との間に挟まれないようにしてください。特に、ハウス内では壁や支柱との間に挟まれたりすることのないようにしてください。

ロータリ部が作業者の直前に来るような後追作業は危険です。ハンドルを180°ターンして作業をしてください。



## ■作業・移動をするとき

### 移動するときは

坂道・凸凹の激しい道・曲がり角・そばに溝がある道・路肩の弱い道などでは、スピードを落とし、最も安全に通行できる場所を選んで通ってください。

また、焚き火や排ワラを燃やしている近くは走行しないでください。事故や火災の原因となります。



### 急な発進・停止・旋回、スピードの出しすぎ禁止

スピードを出しすぎたり、急な発進・停止・旋回は事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますのでおこなわないでください。



### わき見運転・片手運転禁止

ハンドルやクラッチは正しく操作し、わき見や片手での運転はしないでください。



### 坂道では

坂道では、操向クラッチレバーを操作すると、機械が思わぬ方向に旋回してしまうことがありますので、操向クラッチレバーを使わないでハンドルを握って方向転換をしてください。



### 溝や畦を横断したり、軟弱な場所を通るときには

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あり、表面がすべらないように処理してあるアユミ板をかけ、最低速度で操向クラッチレバーを使わずに通ってください。

もし、落ち込んだ場合には、無理に脱出しようとせず、先ず状況判断して適切な処置を巧じてください。



### トラックなどに積込み・積降しするときは

平坦で交通の安全な場所で、トラックなどが移動しないようにエンジンを止め、サイドブレーキをかけ車止めをし、幅・長さ・強度が十分あり、表面がすべらないように処理してあるアユミ板をかけ、最低速度で操向クラッチレバーを使わずにおこなってください。

また、登るときには前進、降りるときには後進でおこなってください。さらに、積込んだときには、本機に車止めをし、十分に強度あるロープでトラックに確実に固定してください。

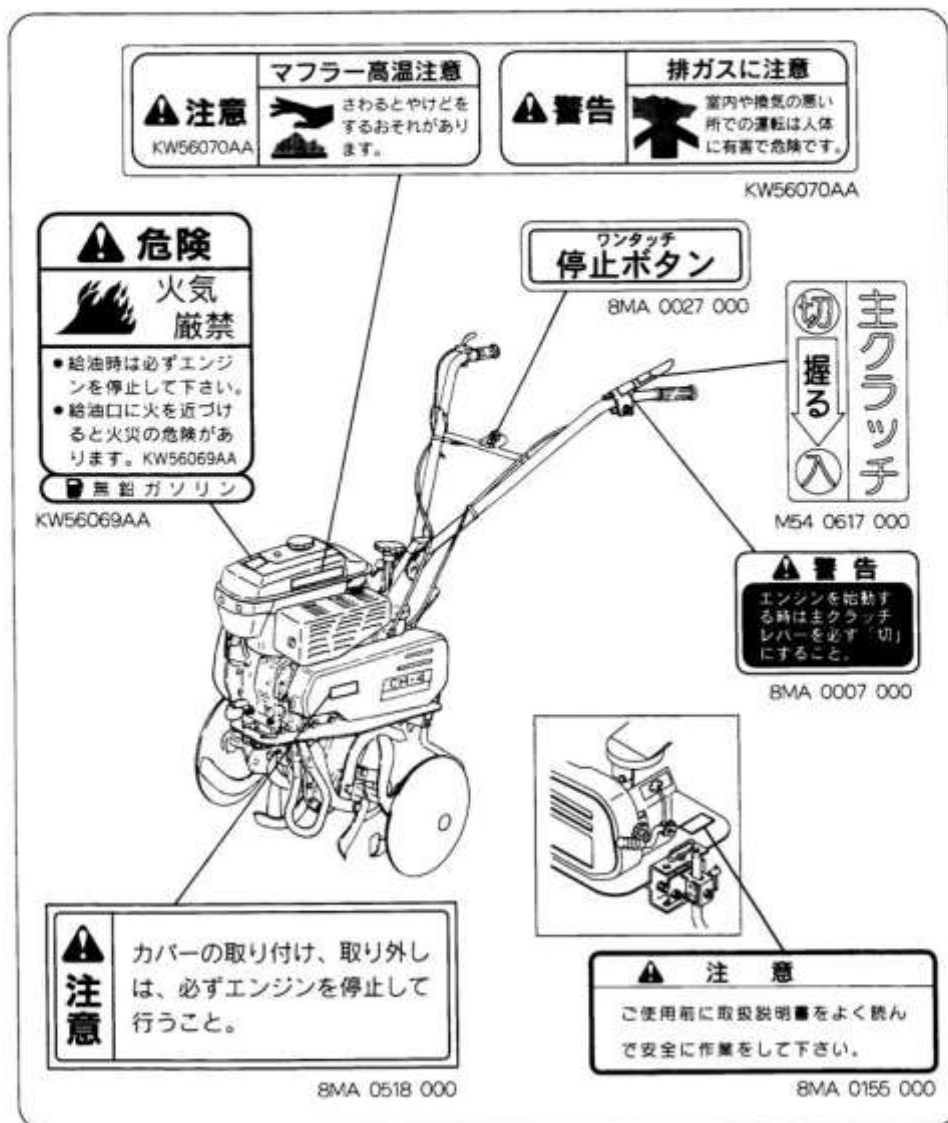




## 2 安全マーク貼付位置

安全に作業をしていただくために、最低限に守っていただきたい注意事項を記載したラベルを、機械に貼り付けてあります。

▲の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる、重要な項目です。ラベルが汚染したり剥がれた場合は、お買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。



### 3 各部の名称とはたらき

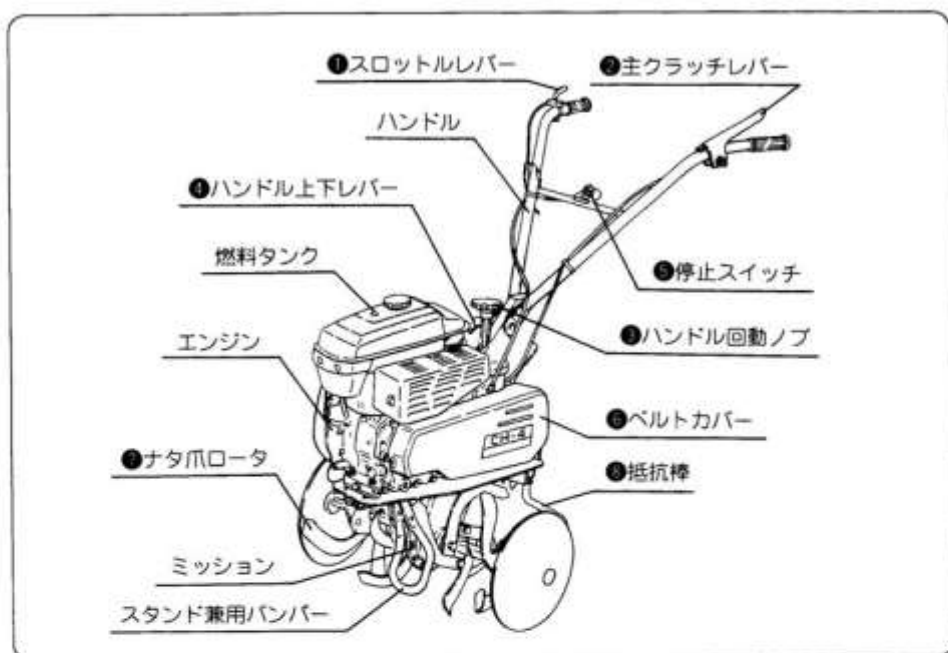


図1

- ① スロットルレバー**  
エンジン回転の上げ、下げに使用します。
- ② 主クラッチレバー**  
デットマンクラッチを採用しておりますので、レバーを握ればクラッチが「入」、離せば「切」となります。  
緊急停止の際はクラッチより手を離してください。機械が停止します。
- ③ ハンドル回転ノブ**  
菊座締付となっておりますので、ハンドルの左右移動に使用します。
- ④ ハンドル上下レバー**  
ハンドルの高さ調節に使用します。
- ⑤ 停止スイッチ**  
エンジン始動は「ON」位置、停止は「OFF」位置にしてください。
- ⑥ ベルトカバー**  
車速が前進2段、後進2段となっております。作業により低速・高速のいずれかをお選びください。  
ベルト掛け替え後は確実にベルトカバーを取付けてください。
- ⑦ ナタ爪ロータ**  
深さ10cm～13cm、耕巾65cmの作業ができます。
- ⑧ 抵抗棒**  
進行速度の調整および深さの調節に使用します。

## 4 作業機の取付け

### 1) 150ナタ爪の取付け

車軸部は伝達効率の良い6角軸ですから作業機の取付け・取外しが楽です。  
6角寸法は対辺18mmとなっています。

- ① 刃受チューブを車軸の左右に平頭ピンφ6とRピンを使用して取付けてください。  
左右の爪が対称になるように取付けてください。特に爪の回転方向には注意してください。
- ② 延長ロータ及びディスクロータを左右に平頭ピンφ8とRピンを使用して取付けてください。  
ディスクロータは左右共、ピン穴を合せて取付けてください。

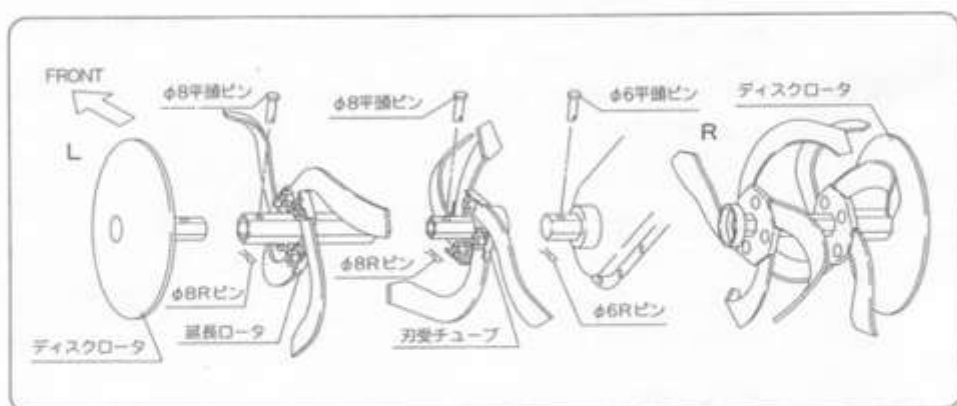


図2

### 2) 抵抗棒の取付け

抵抗棒はシャシーフレームの後方の穴に差込んでください。  
抵抗棒の高さは作業者に合せて調節してクランクレバーで確実に締付けてください。



図3

### 3) 畦作り培土作業

150ナタ爪を外して車軸部にタイヤ又は牽引車輛等を取付け、シャーシーフレーム後方穴部に培土器の支桿を差込み、高さ及び食い込み角度の調節をしてください。

畦の大きさ・溝幅により培土の選定もできます。

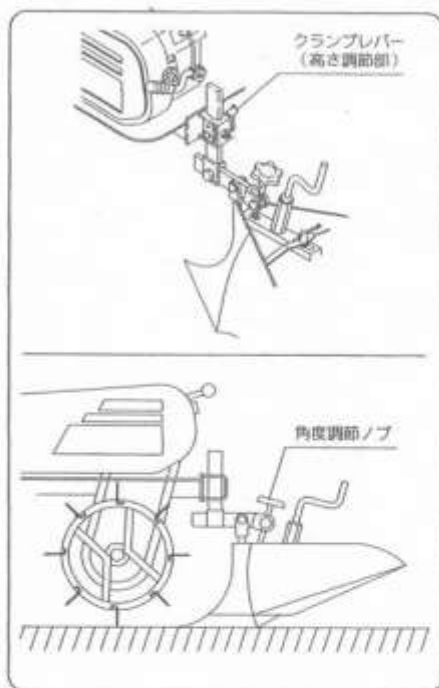


図4

## 5 本機組立

### 1) 本機の組立

ダンボール箱よりミッションAssy及びその他の部品を取出す。

- ① ハンドル受座にハンドルフレームを乗せ、菊座位置を合わせてハンドル回転ノブで締め付けて固定する。
- ② ハンドルパイプの先端φ10部をハンドルフレームの切欠部に合わせて差し込む。
- ③ ハンドル取付ボルトを角穴に合わせて差し込み、ハンドル上下調節レバーで確実に締め付ける。
- ④ ミッション先端のスタンドを立てる。
- ⑤ カルチソケットをシャーシフレームの後にキングピンを使用して取付け、M10のボルト・ナットを調節して左右の平行を出す。
- ⑥ 抵抗棒をカルチソケットに差し込み、クランプレバーで締め付け、シャーシフレームをやや水平にする。
- ⑦ スロットルレバー（アクセルレバー）をハンドルパイプ右側に取付ける。
- ⑧ 停止コード・アースコードの接続を確実に差し込む。
- ⑨ テンションワイヤーをハンドル左側の主クラッチレバーに取付ける。
- ⑩ 150ナタ爪カンを左右の車輪に平頭ピンとRピンで取付ける。



**注意**

★組立作業は平坦で安定した場所をお選びください。

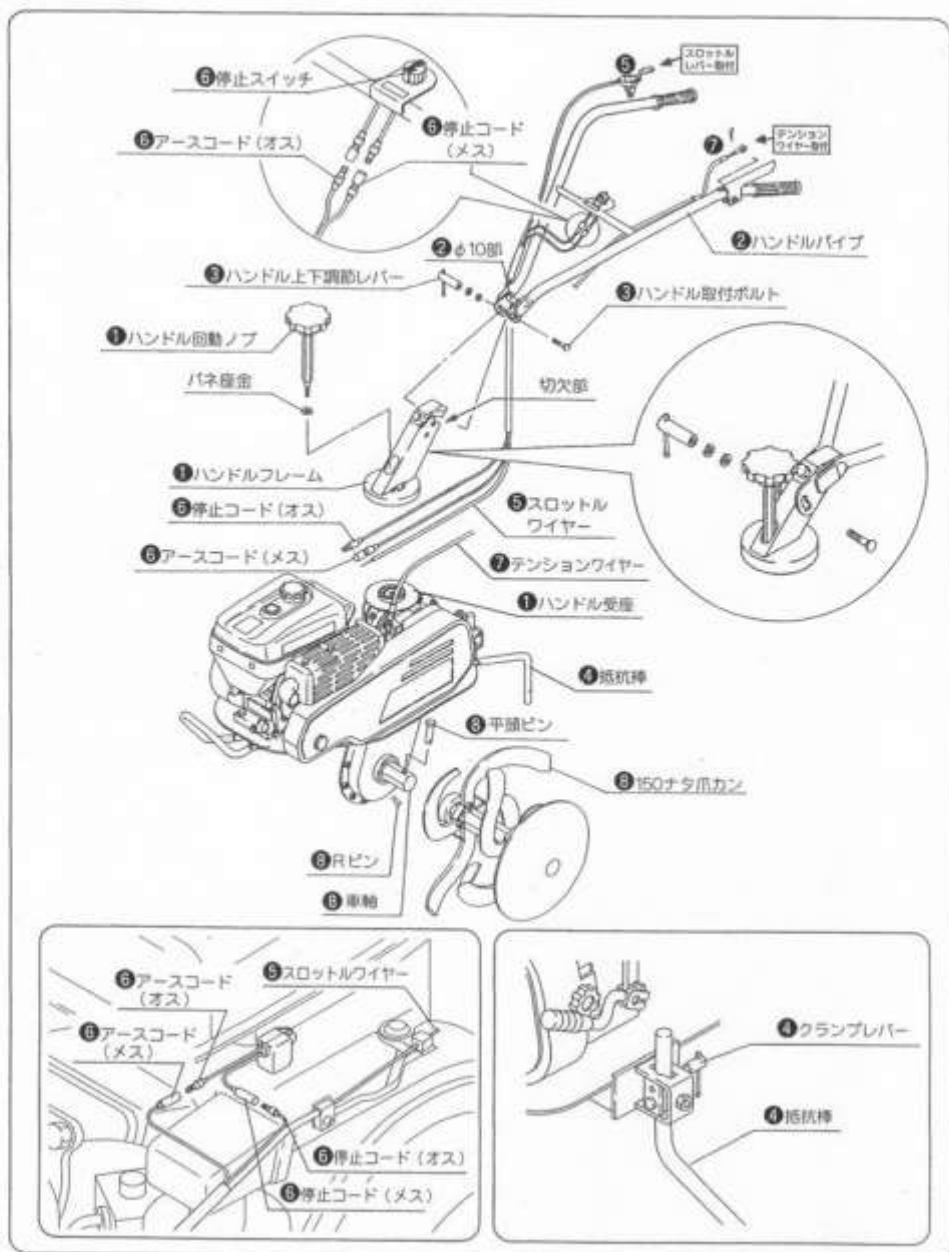


図5

## 6 作業前の注意

作業前には必ず次の点検をおこなってください。



★燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。  
火災を起こす危険があります。



★点検・整備をおこなうときは、必ずエンジンを停止させ、過熱部分が冷めてからおこなってください。  
★エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。  
火傷や火災のおそれがあります。  
★燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。

- **エンジンオイルは入っておりません。**  
(エンジンオイルを入れる際は24頁を参照のこと)
- ミッションオイルは入っております。(点検は25頁を参照のこと)
- 燃料給油の際は口元いっぱいまで入れますと、こぼれますので少しすくぬめにしてください。
- 各作動部へ注油をし、各部が正しく作動することを確認してください。
- エアクリーナのエレメントにホコリやゴミが付着していないか点検してください。
- 主クラッチレバー、スロットルレバー等が正しく作動することを確認してください。
- エンジン、ミッション等から油もれがないか点検してください。
- 各部のボルト、ナット類のゆるみ、脱落の有無を点検し、10～20時間で各部の増締めをしてください。
- 150ナタ爪の点検、刃のこぼれ、摩耗に注意し早めに交換してください。

## 7 運転の方法



警告

- ★エンジンをかけるときや作業中は、他の人を本機に近づけないようにしてください。
- ★エンジンをかけるときには、機械の周りに物を置かないでください。
- ★エンジンが停止しても、エンジンやマフラなどの過熱部分には、すぐに手を触れないでください。火傷をします。



### 7-1 エンジンの始動・停止

#### 1) エンジンの始動のしかた



警告

- ★エンジン始動時には、各レバーの位置と周囲の安全を確認してください。
- ★エンジンの暖機運転は、閉めきった室内ではおこなわないでください。排気ガス中毒の原因になります。

- ① 主クラッチレバーを「切」位置にします。  
(図6)  
(ハンドルパイプより左手を離します。)

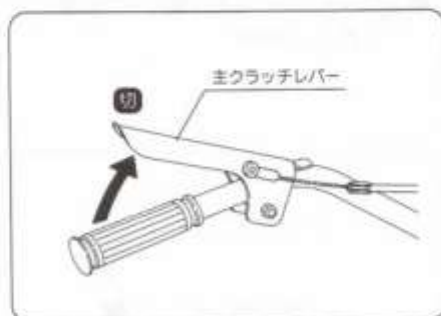


図6



## 7 運転の方法

- ① 燃料コックを「開」位置にします。  
(図7)

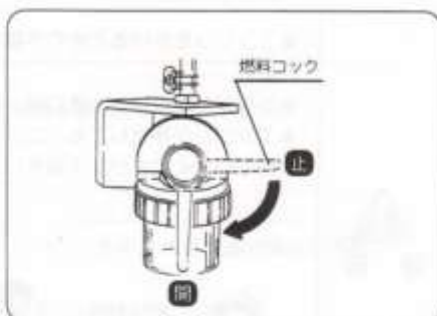


図7

- ② チョークレバーを「閉」位置にします。  
(図8)

※エンジンが暖まっている場合は「開」位置で始動します。

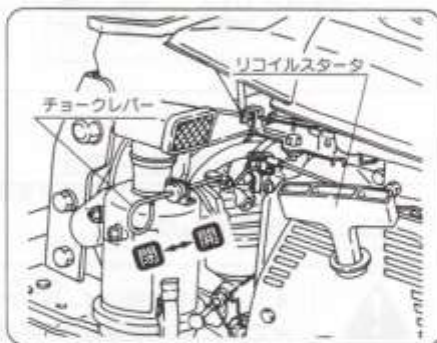


図8

- ③ スロットルレバーを中間位まで引張ってください。(図9)

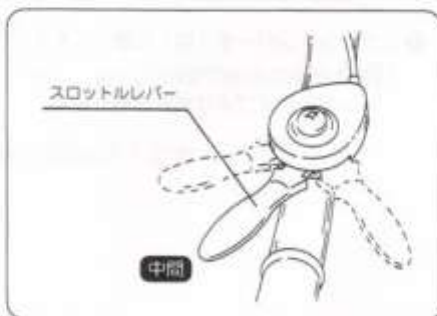


図9

- 停止スイッチを「ON」位置にします。  
(図10)

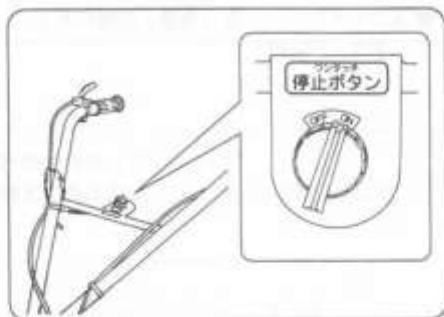


図10

- リコイルスタータを勢いよく引張り、エンジンが始動したらチョークレバーを徐々に「全開」位置にしてください。  
(図11)

※リコイルスタータを3回以上引張っても始動しないときは、燃料の吸いすぎとなりますのでチョークレバーを「開」位置にしてから、再度リコイルスタータを引張ってください。

- エンジン始動後、約3分間は負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。(エンジン暖機運転)

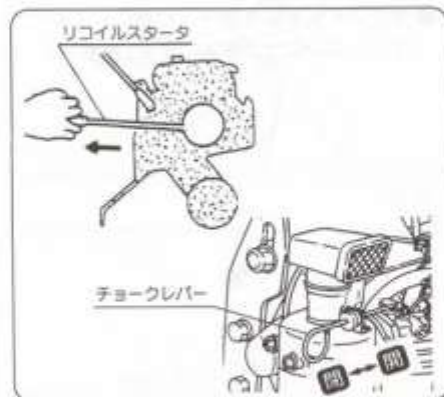


図11

## 2) エンジン停止のしかた

- 主クラッチレバーを「切」位置にします。(ハンドルパイプより左手を離す)  
(図12)

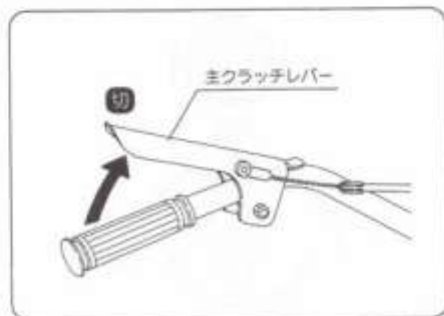


図12

## 7 運転の方法

- ② スロットルレバーを「低速」位置にもどします。(図13)

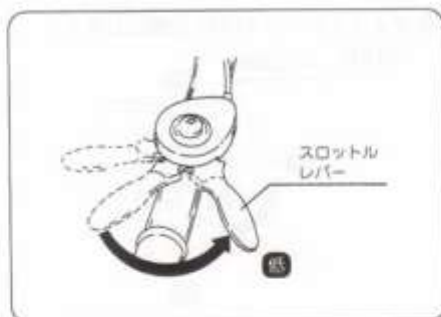


図13

- ③ 停止スイッチを「OFF」位置にしてください。エンジンが停止します。(図14)

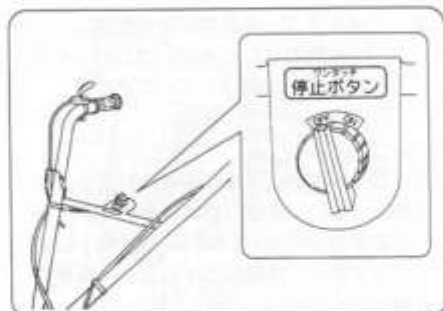


図14

## 7-2 発進・旋回・変速のしかた

### 1) 発進のしかた



警告

★発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。  
★ベルトカバーの取外しやベルト掛替えの際はエンジンを停止してからおこなってください。

- ① スロットルレバーをゆっくり [高速] 位置にします。(図15)

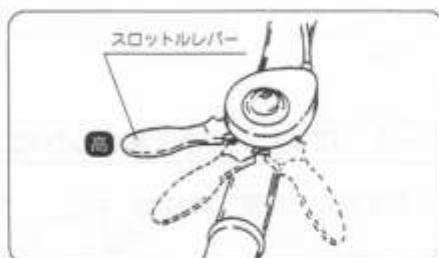


図15

- ② 左手で主クラッチレバーをゆっくり握るとクラッチが入ります。(図16)
- ③ 坂道や凸凹カーブの多い道路では高速運転をしないでください。

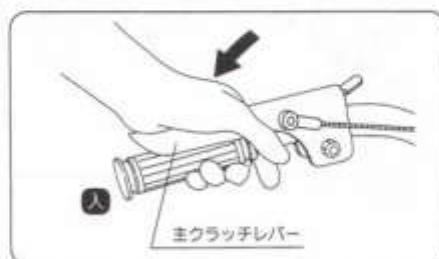


図16

### 2) 旋回のしかた(図17)

- ① 旋回または進路変更をするときはハンドルを振っておこないます。

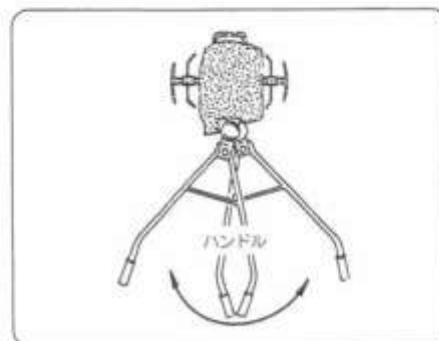


図17

## 7 運転の方法

### 3) 変速のしかた(図18)

- ① チェンジレバーの操作により前進2段の速度が得られます。
  - 低速は150ナタ爪ロータによる耕うん作業、培土作業等ができます。
  - 高速はスパイラルローターによる除草作業ができます。



図18

### 7-3 150ナタ爪の作業のしかた

#### 1) 耕す深さの調整方法(図19・20)

- ① 抵抗棒によりハンドルの高さの調整および進行スピードの調整をおこないます。

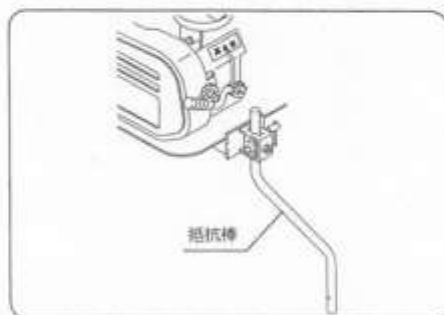


図19

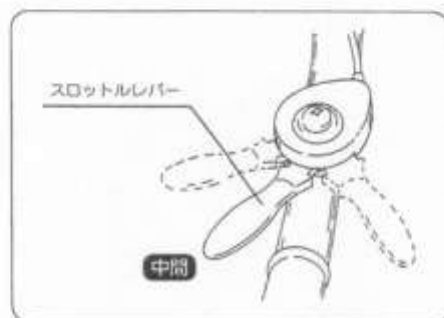


図20

- ② 深く耕したいときは、ハンドルパイプに力を加えて抵抗棒に力を加えます。
- ③ 浅く耕したいときは、ハンドルパイプを少し持ち上げるように進みます。  
(図21)

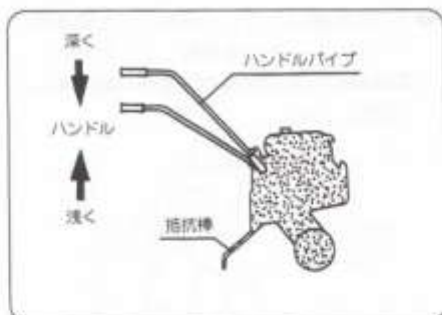


図21

## 2) ハンドル高さおよび左右回転について

- ① 運転者にあわせてハンドルをあわせることができ、常に楽な姿勢で運転ができるようになっています。高さの調節はハンドル上下調節レバーをゆるめてハンドル取付ボルトを上下に移動してください。  
(図22)

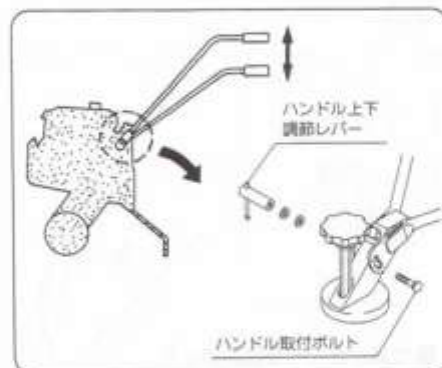


図22

## 7 運転の方法

- 左右の回動はハンドル回転ノブをゆるめて左右にハンドルを移動してください。菊座締付けで12度毎の固定が可能です。(図23・24)

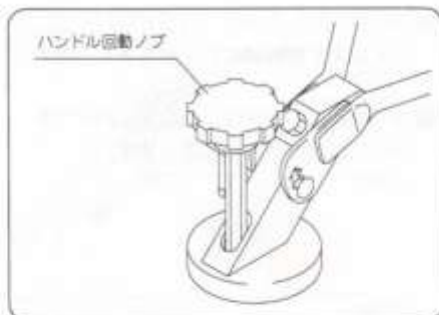


図23

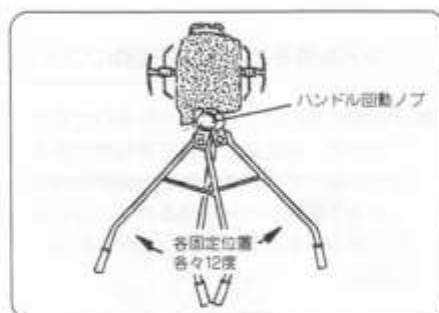


図24

- 作業に合わせた調節の仕方  
ハンドルターン(回動)の仕方(図25)  
作業に合わせて使いやすい角度(12度おき)で使用できます。  
うね造り、あぜ際、ハウス支柱際などの歩きにくいときなどに使用すると大変便利です。

### 〈回動のしかた〉

1. ハンドル回転ノブをゆるめます。
2. ハンドルを適当な位置まで回動させます。
3. ハンドル回転ノブを確実に締め付けて固定してください。

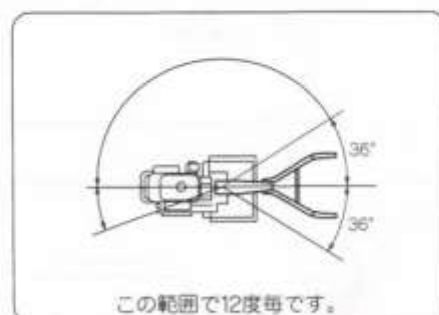


図25

### 3) エンジン停止

- ① スロットルレバーを「低速」位置にもどし、停止スイッチを「OFF」位置にしてください。(図26・27)

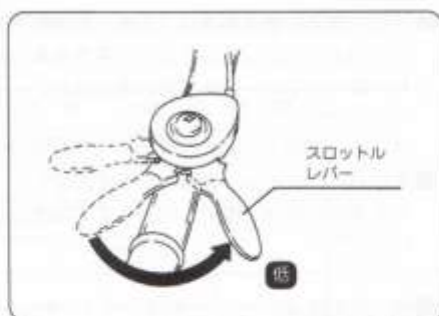


図26

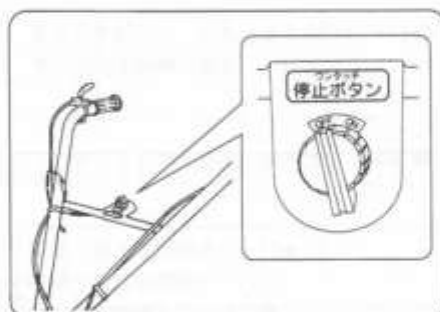


図27

- ② 燃料コックを「止」位置にする。(図28)



★コックを開いた状態で保管したり、前に倒したり、また車輦で運搬するとエンジンの始動が困難となることがあります。

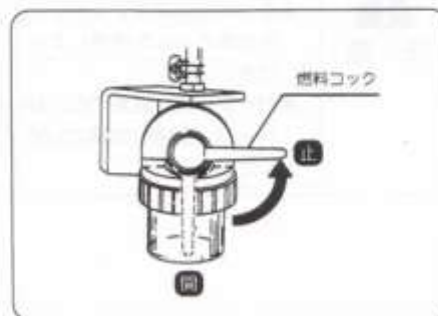


図28



## 7 運転の方法

### 4) トラックへの積み込み、積降しの方法

- ① 平坦で安全な場所を選び、トラックが動かないようにエンジンを止め、ギヤを入れ、サイドブレーキを引き、車止めをしてください。
- ② 積み込みの際はエンジン停止し燃料コックを止めにして足元や周りに注意して車に乗せてください。
- ③ ロープを掛けるときは、十分強度のあるロープを使用し、確実に機械を固定してください。
- ④ 積降しのときは、足元や周りに注意して機械を降ろしてください。

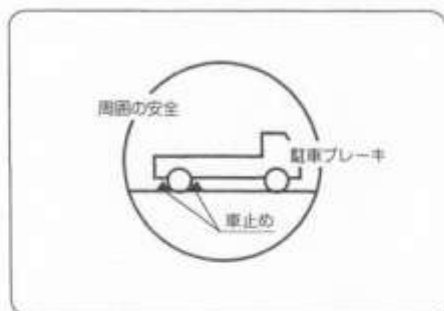


図29



注意

- ★ロープを掛けるとき、変速レバーや樹脂などの小物部にロープが触れないように気を付けてください。
- ★あゆみ板は丈夫ですべり止めのあるものを使用してください。
- ★ロープを掛け終わったら、レバーは〔低速〕位置にしてください。

## 8 作業後の点検・整備

### 8-1 定期点検一覧表

安全のため、そして故障を未然に防ぐために、機械を定期的に点検する必要があります。  
一般的な使用条件下での点検・整備の項目は、下表の通りです。

点検・整備項目	点検・整備時間				
	毎運転前	25時間毎	50時間毎	100時間毎	随時
●エンジンオイルの点検・補給	○				
●エンジンオイルの交換		初回のみ○	○		
●ミッションオイルの交換			初回のみ○	○	
●エアクリーナの清掃	○				
●ストレーナの掃除			○		○
●点火プラグの点検・清掃			●		
●レバー類の作動と点検	○				
●ベルトの点検と調整		●			○
●作動部への注油等	○				
●ボルト、ナットの点検	○				

●印項目は、高度な技術や工具が必要ですので販売店に依頼してください。

### 8-2 各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは機械の性能を落とすだけではなく、故障の原因にもなります。  
定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量、給油してください。



- ★点検するときは、エンジンを必ず水平にしておこなってください。
- ★排出されるオイルで、火傷をしないように注意してください。

## 8 作業後の点検・整備

### 1) エンジンオイル (図30)

#### 〈点検〉

- ① オイルゲージを外して、ゲージの先端をきれいに拭きます。
- ② ねじ込まないで差し込みます。
- ③ 再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。

#### 〈交換〉



注意

- ★排出するエンジンオイルで火傷をしないように注意してください。
- ★必ず規定のエンジンオイルを使用してください。
- ★初回は少なくとも25時間機械を使用したら、オイル交換をしてください。

- ① エンジンプラグ室のオイルゲージを取外す。
- ② ドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出します。
- ③ 給油は、給油口よりオイルゲージの規定量まで入れてください。  
(規定量……0.6ℓ)  
夏期……SAE-30 SAE10W-30  
SAE10W-40  
冬期……SAE-20 SAE10W-30
- ④ オイルゲージを確実に締付けてください。

※エンジンが暖かい内に抜くと容易に抜くことができます。

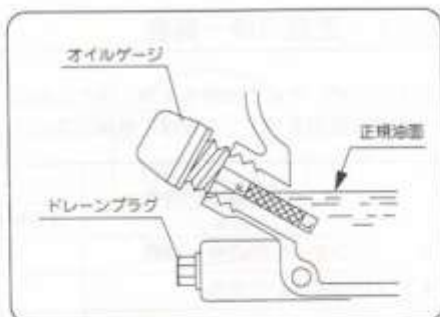


図30

## 2) ミッションオイル (図31・32)

〈点検〉

油もれないことを調べてください。

〈交換〉



★必ず規定の良質ギヤオイルを使用してください。  
★初回は少なくとも50時間機械を使用したら、オイル交換をしてください。  
2回目以降は、1年に1回又は100時間毎オイル交換してください。

- ① 注油栓を⊖ドライバーを使用して外してください。
- ② ミッションケース下部の排油口ボルトを外して、オイルを抜いてください。
- ③ 排油口ボルトを確実に締め付けてください。
- ④ 注油口より新しいギヤオイルSAE #90を0.8ℓ入れてください。
- ⑤ 注油栓を確実に差込んでください。

※ミッションが暖かい内に抜くと容易に抜くことができます。

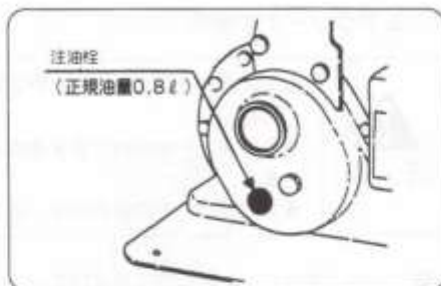


図31

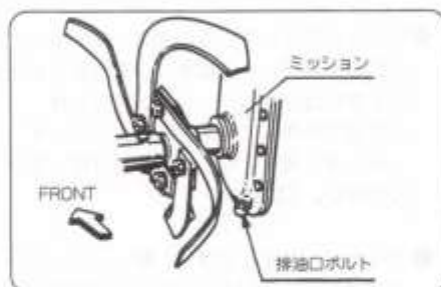


図32

## 8 作業後の点検・整備

### 3) エアクリーナの掃除



- ★エアクリーナエレメントやエアクリーナのオイルが汚れたり、少なくありませんか。
- ★エレメントが汚れたまま使用すると、エンジンの出力低下や故障の原因になります。
- ★エアクリーナの吸込口は、ホコリの少ない方向に向けてください。

- ① グリップを外し、オイルパンおよびエレメントを取り外してください。(図33)
- ② オイルが不足しているときは、オイルレベルまで補充してください。汚れがひどいときにはオイルパン・エレメント共、白灯油で洗浄しエレメントはエンジンオイルに浸し滴下しない程度に振り切ってください。(図33)
- ③ オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイル（SC級以上）をレベルまで入れてください。(図33)
- ④ エアクリーナの吸込口をホコリの少ない方向に向けてください。(図34)

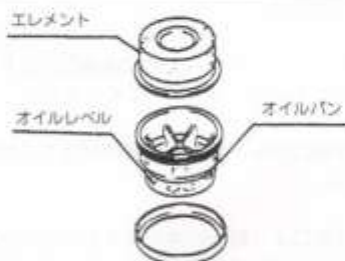
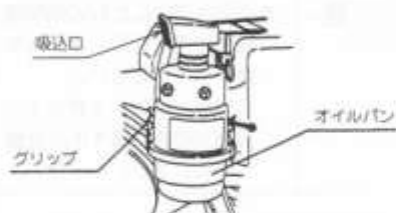


図33

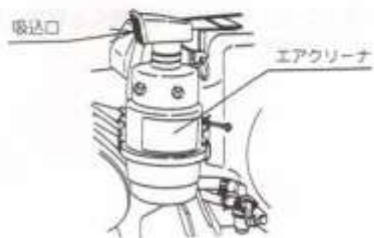


図34

#### 4) 注 油 (図35)

- ❶ 各作動部分には油差しで注油してください。
- ❷ 各々のレバー類と軸受部分等
- ❸ 各々のワイヤには注油口よりワイヤを作動させがらおこなってください。特に露出部分には念入りにおこなってください。

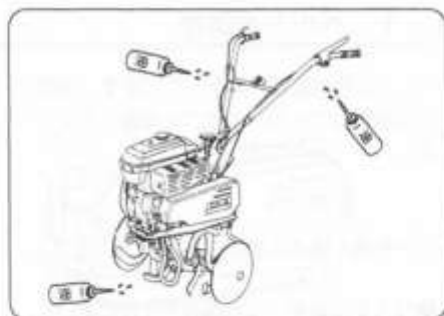


図35

## 9 主要部の調整

### 9-1 ベルトの調整

ベルトは初期伸びが発生いたします。使用後10時間位でベルトの伸びを調整してください。

ベルトを強く張るためには

- ① ワイヤー調整ナットを緩めてください。(図36)
- ② ワイヤー調整ボルトを上にしてA寸法を長くしてください。(図36)
- ③ 調整ボルトにおいて調整不可の際はエンジン固定ボルト(4本)を緩め、エンジンを前方に移動させてベルトの張り具合を調整します。(図37)
- ④ 主クラッチレバー [入] 位置にしてベルトが確実に張れているか確認してください。(図38)

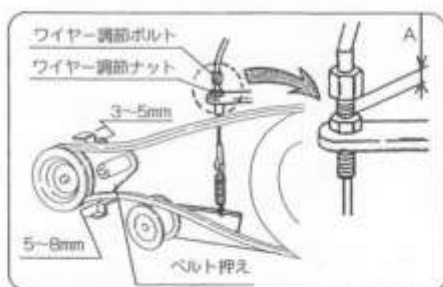


図36



図37



図38

### 9-2 変速のしかた (図39)

#### 1) チェンジレバー

チェンジレバーを止の位置から右に倒すと低速に、左に倒すと高速となります。チェンジレバーの操作は必ずクラッチを切ってからおこなってください。

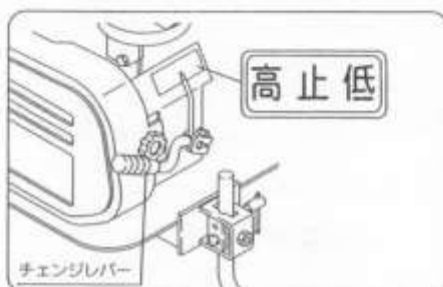


図39

## 10 格納のしかた

●長時間運転しないときや長期間保存する場合は次の手入れをおこなってください。

### 1) 本機の清掃、洗浄、注油

泥、ゴミ、塵等は水洗し、水洗後はよく水分を拭取り各回転部、摺動部にたっぷり油を差してください。

### 2) オイル交換 (24頁の図30、31参照)

オイル交換は作業が終わって潤滑油の暖かい内におこないますとたいへん楽ですし、またきれいに排油することができます。

### 3) ガソリンの抜取り



★燃料を抜くときは火気厳禁、風通しのよい所でおこなってください。  
抜いたガソリンは安全な所に保管してください。

#### ① 燃料タンク内のガソリン抜取り

ホースバンドを緩め、燃料コック側のホースを外して、別容器に燃料を受けてください。

#### ② キャブレター内の燃料抜取り

キャブレターのドレーンプラグを緩め、燃料を容器に受けてください。  
完全にガソリンが抜けたら元にもどしてください。

#### ③ 燃料コック内のガソリン抜取り

燃料コックのカップを緩め、容器に受けてください。完全にガソリンが抜けたら元にもどしてください。



# 11 不具合と対策方法

不具合内容	対策方法
エンジンの始動不良	<p>1 停止スイッチおよびスロットルレバーの確認 停止スイッチを〔ON〕位置にしてスロットルレバーを〔S〕位置にしてください。</p> <p>2 燃料の確認 燃料が充分入っているかどうか確認してください。少ない場合は補給してください。 燃料コックのレバーを〔開〕位置にしてください。</p> <p>3 チョークレバーの確認 チョークレバーの操作は、寒いときは〔閉〕位置にしてください。始動後は徐々に〔開〕位置にしてください。暖まったエンジンを再始動する場合はチョークレバーを〔開〕位置または〔半開〕位置にしてください。</p> <p>4 点火プラグの確認 チョークをしすぎたり長時間機体を前方に倒したままにするとプラグが湿りがちとなりますのでプラグを外して掃除をしてください。なお、プラグの隙間は0.6~0.7mm（ハガキ2枚分）が標準です。</p>  <p style="text-align: center;">電極間隙0.6~0.7mm</p>

不具合内容	対 策 方 法
エンジンの始動不良	<p><b>1 エアクリーナの点検</b>            エアクリーナのエレメントは塵により目詰りします。普通は20～50時間の点検ですが、塵の多い作業では早く目詰りしますので、エレメントは灯油できれいに洗いよく乾かしてから新しいエンジンオイルに浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として粗込んでください。オイル分が多いとすぐに目詰まりします。</p> <p><b>2 リコイルスタータの目詰まり点検</b>            リコイルスタータの吸気口にワラや草等が詰まるとオーバーヒート気味になりますので掃除をしてください。</p> <p><b>3 エンジンオイルの点検</b>            エンジンオイルは規定量入っていますか、エンジンオイルが汚れていると各部の摩耗を早めます。また傾斜地等で使用の際はオイルが少ないと焼付を起こしますので、オイルの補給をしてください。エンジンを水平にしてオイルゲージをねじ込まず、差込んで点検してください。</p> <p><b>4 車軸部の点検</b>            草やワラ等の多い所で作業の際は各種ロータに巻付き余分な馬力を必要としたり、また作業性能も悪くなりますので掃除をしてください。エンジンは必ず停止して作業してください。</p>

上記の対策をしてもトラブルが直らないときは、販売店にご相談ください。

## 12 特 長

### (1) 快適なエンジン

ハウス内作業も快適にできるよう、エンジン・騒音・排気等を考慮し、定評ある4サイクル電子エンジンを搭載しています。

### (2) 作業速度が選べます

作業内容に合わせて前進2段の速度が選べます。

低速は150ナタ爪ローターの耕うん作業、培土作業等ができます。

高速はスパイラルローターによる除草作業ができます。

### (3) ミッションは狭くて丈夫です

うね間作業ができるよう、ミッション幅を可能な限り狭くしてありますし、また石等に当たっても丈夫な鉄板製でできています。

### (4) ハンドル自由

作業者に合わせて、ハンドル上下はもちろん左右12度毎の移動が可能です。

### (5) 細やかな配慮

エンジンから伝導ベルトはもちろん、動力取出軸もカバーされています。

### (6) 本格的な車軸耕

150ナタ爪を使用しており深く耕し、草の巻付きが少なく作業の能率がスムーズにおこなわれます。



# 13 仕 様

## (1) 本 機

項 目		仕 様	
型 式		CH-4	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1140	
	全 幅 (mm)	640	
	全 高 (mm)	1100	
	重 量 (kg)	35 (ナタ爪ロータは除く)	
主クラッチ方式		ベルトテンション式 (デットマンクラッチ)	
変 速	前進2段	車軸回転数 (rpm)	
		低 速	高 速
		70	115
車 軸 形 状		六角軸 (対辺18mm)	
作 業 幅 (mm)		ナタ爪ロータ 650	

## (2) 搭載エンジン

項 目		仕 様	
名 称		GM132LN-39A	
形 式		空冷4サイクルガソリンエンジン	
総 排 気 量 (cc)		126	
連 続 定 格 出 力 (PS/r.p.m)		2.8/1800	
最 高 出 力 (PS/r.p.m)		4.2/2000	
回 転 方 向		左 (出力軸より見て)	
使 用 潤 滑 油		自動車用エンジンオイルSAE30または10W30	
使 用 燃 料		自動車用ガソリン (無鉛)	
燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)		3.0	
点 火 プ ラ グ		NGK・BP6HS	
乾 燥 重 量 (kg)		15	
寸 法 (mm)		308 (全長) × 345 (全幅) × 336 (全高)	

※仕様は改良のため予告なく変更する事があります。